

商 況

販賣旬報 第130號 昭和5年6月11日

製鐵所販賣部

更生の道なきか (其の4)

4) 抑々企業の提携はと殊更袴をつけなくとも、全企業の大同團結に依つて販賣市場に臨むとき、群雄割據時代の無用の競争は防止せられて獨占的優勝の地位に立ち、市場支配權は自ら生産者の手中に歸すること理の當然、共存共榮は勿論のこと、問屋や消費者の傀儡たることを免がれて價格決定權を獲得し得るも亦疑ひない、而已ならず更に大きな效能として擧ぐべきは生産費の低減である、國の内外に起る總ての注文を一手に集めて、此を組合員各社に分配する中央機關の設定は其の合理的なる活動の下に無意識的に各社の生産分野を劃し従つて單種多産乃至大量生産が實行せらるゝのみならず、且は重複運賃其他間接費の省略に生産費の節約せらるゝこと夥しい。

論より證據 歐洲大動亂によつて手をとられ足をもがれて悉く叩きのめされた獨逸が戦後10年ならずして既に英米に報復し全世界を席捲し得たのも此の英斷と愛國心があつたればこそである。忠君愛國、舉國一致を誇る神代ながらの日の本に何故に大同團結が出来ないのか、戦争ばかりが國難ではない。

條鋼組合を作れ、鋼板組合を作れ、而して永遠の國策を講ずると同時に目下の危急を救ふべきではあるまいか、「金がないから組合は作れない」と當事者は云ふ、成程、だが金は天下の廻り物眞面目であれば出し手もある。

然らば具體的にはどんなものが考へられるか

第1は例へば製鐵所を中心とする共販組合、即一所に集まつた注文を一定の割當率に従つて各社に公平な分配を試みるのである。

第2は株式會社を設立して各社持株の形式に依り共同販賣の機關たらしむることである。

何れの場合にも生産と需要は足並揃へて賣崩れもなく數十の會社は只一社の陰にかくれて單に外國品と激對すれば事足りる。もし夫れ「組合成立の曉には現在の需要状態では著しき生産制限を強ひられる結果となるであらう、職工には賃銀を拂はにやならない、さりとて解雇も出来かれる、金を貸せ、さなくば最低割當量を保證しろ」と主張するものがあるならば人の禪で相撲をとらうと云ふ洵に結構な御考へ、出なほして協調の何ものなるかを三省するか、一か八かの戰國時代でおし通し自滅を待つの外にはあるまい、成程其も一案、もともと歐洲大戰中の需要膨脹に刺激せられて泡錢を擲もうとニヨキニヨキ出來た會社だから一度は自然淘汰で整理をするのが我國鐵鋼界の立直しの捷徑かも知れない、だがキリストは云つた「最後の一人を救へ」と、筆者は此の言葉が忘れられない。

5) 第2は輸入の防壁である、市場今日の不況を招いた原因の一半が供給量の過剰にありとするならば其の $\frac{1}{2}$ は輸入防壁施設の不完備に責を歸せればならぬ、一寸でも値上がりの趨向を示したとして見給へ、問屋さんの頭の中で算盤玉がカチカチカチカチとはじかれる、二一天作の五、三進が一十、割出された結果が外注飛電、我こそ紀の國屋文左衛門と、あつちにもこつちにも一人北叟笑む今様紀文で満ち満ちる、然しどつこい御時勢が違つてゐる、3月もたつて神戸の港に入る頃には密柑船ならぬ鐵の山、はてこんなはづはなかつたがと、棟喜びも後の祭り、内地品の契約とかち合つてしこたま抱へ込んだあげくのはてが賣急ぎの相場くずれと相場はチャンときまつてゐる、而もその言譯が振つてゐる、「こんな不況に無暗矢鱈に製品を作るとは不届至極、ちつとは生産制限をせにや市場は決して回復しません」内地のメーカーは將に踏んだり蹴つたりである。

然し利益に眩惑されてゐる問屋さんの自制心に希望を繋いだり、愛國心に訴へたりしてゐる間には夜が明ける、姑息、間接なるの誹りを免がれぬとして何とか方策を立てればなるまい。

9. 10月積先物協議會 6月7日大阪平和俱樂部に於て開催冒頭製鐵所側より次の提案あり、
棒鋼及山形鋼に就ては最近官民分野協定の正式調印を見る運びとなり、従つて製鐵所の建値の品種を
棒鋼に就ては 丸鋼9耗及50耗以上、角鋼ベース、平鋼36耗以下70耗以上の5つ
山形鋼に就ては 等邊50耗、45耗以下及130耗以上、不等邊の4つにすること。

之に對し問屋側は今月直ちに實施することは何等準備もなき事故來月の先物より改正せられたしとの意向にて此提

工形鋼	山形鋼	mm mm		備考	
6" × 16" 2	3 圓下ゲ	3 × 40	5	5 圓下ゲ	
7 × 18 3	2 圓下ゲ	5 × 40	1	3 圓下ゲ	
7½ × 20 3	"	4 × 45	1	"	
7½ × 24 6	4 圓下ゲ	4 × 50	0	"	
品 種 \ 區 分	入電沖着	河岸着値段 (爲替%—%)	希望	決定 値段	備 考
棒 鋼 ベース	6—9—6	83.54	76	80	据 置
丸 鋼 9 mm	6—14—0	85.73	73	73	"
平 鋼 65 mm 以下	—	—	74	74	"
中 小 型 山 形 鋼	6—9—6	83.54	79	82	1 圓下ゲ
大 型 山 形 鋼	6—9—6	83.54	79	81	"
工 形 鋼	6—6—6	82.10	80	81	"
溝 形 鋼(時のもの)	6—18—6	87.90	85	86	"
" (耗のもの)	5—7—6	82.58	81	81	2 圓下ゲ
鋼 板 ベース	7—10—6	93.72	86	86	8,9 月積値段
" 3.2 mm	7—6—0	91.55	91	91	3 圓下ゲ
" 2.3 mm	7—12—0	99.94	99	99	"
" 1.6 mm	6—17—0	101.87	101	101	2 圓下ゲ
線 材	6—19—0	81.94	80	81	"
薄 鋼 板	13—5—0	158.96	—	—	賣出中止
鉞 力 板 100lbs	1—0—3	10.72	10.50	10.60	据 置
" 170lbs	1—17—0	19.54	19.40	19.60	"

案は來月より實施することに決定した。次で個別的の協議に移り、溝形鋼耗サイズ及鋼板エキストラ物は外註値段の値下りにつれて三都希望を容れ、棒鋼ベースに就ては問屋側は外註値下りと市中不味を理由として 76 圓を希望したが、此でも實際は買へない値段であつて見れば下げるも無意味、官民分野協定を目前に控へて謂はゞ過度期であるからとの理由の下に据置と決定、其他の條鋼類も略同様の理由により前月との外註値段を比較し夫々左表の如く決定した。

鋼板ベースは問屋、シャー共 86 圓を希望、製鐵所も別に反對する理由もなく一破亂免れまいと豫想された問題も

備考 (1) charge を今月より ¥5.50 と改正す
(2) 鋼板ベースは 8、9 月渡値段とす

無難に解決された。但し鋼板ベースは先月建値が發表されなかつたので、此度の決定値段は 8、9 月積の値段として 9、10 月積は來月決めることとなり結局鋼板ベースは 2 ヶ月限となつた譯である。

薄板は問屋側最近の市況悪化を楯に是非共 1 ヶ月賣出し中止を懇請し川崎造船所よりも同様の申出あり爲に來月は必ず買取る條件の下に此處 1 ヶ月賣出を休止することにした。

猶上前の指定寸法エキストラは本月より上の如く改正された。

5 月の鋼材輸入に就て——條鋼、鋼板、減少 1 月以來の不況は漸く輸入に反映するに到つた。

先づ條鋼類に就て見るに前年同期の 8 萬 3,000 噸に比し今年は 4 萬 3,000 と正に 4 萬噸の減少で此傾向は月を経るに従ひ顯著となり、前月と比較しても 2,500 噸の遞減を見た。然し其内容を見ると其中心は丸鋼で其他に就ては所謂茶人向もあらうがまだまだ減少の餘地があるのではあるまいか特に溝形は寧ろ増加して居る。

昭和 5 年 5 月中三港鋼材輸入數量表 (單位噸)

品 種 \ 區 分	神 戸	大 阪	横 濱	5 月計	前月計	本年累計	前 年 同期累計
丸 鋼	348	404	409	1,161	1,862	13,510	45,623
角 鋼	44	45	68	157	209	1,515	3,071
平 鋼	207	35	152	394	764	6,074	7,286
等 山	176	5	273	454	970	6,475	11,311
不 等 山	500	—	55	555	562	4,116	1,975
溝 形	128	38	244	410	791	3,596	3,482
工 形	67	485	154	706	1,093	7,478	10,474
鋼板(0.7mm超)	1,530	81	1,263	2,874	6,135	28,943	16,772
"(0.7mm以下)	2,231	1,461	2,286	5,978	4,762	21,030	39,477
鉞 力	2,842	522	3,032	6,396	3,839	28,532	27,236
軌 條	56	340	90	486	171	6,361	16,091
線 材	6,034	882	1,639	8,555	7,151	32,644	64,926
シートパイル	3,216	866	1,291	5,373	3,127	15,627	11,991

鋼	管	54	328	1,087	1,469	1,374	13,354	22,198
其	他	666	209	1,634	2,509	2,705	12,687	14,842
	計	18,099	5,701	13,677	37,477	36,015	201,992	296,755
硫	安	12,639	520	288	13,477	8,976	69,121	
石	炭	13	—	—	13	—	25	
ナ	フ	51	9	3	63	276	443	
ク	レ	17	8	—	25	32	553	

鋼板(0.7 耗超)は5月は一擧2,000吨臺と云ふ激減振りであるが前年同期と比較すれば1萬2,000吨も増加して居る、これのみが必ずしも不況の原因とは云はぬが其最も大なる素因として數ふるには誰しも異存はあるまい。

薄板は前月に比しては稍増加したが今年は前年より已に2萬近くの輸入減でありながら深刻なる不況に見舞はれて居る、其原因は何れにあるだらう。

其他目に立つものは軌條の没落と線材が豫想以下であつた事である。軌條は統制宜しきを得て殆んど完全に自給自足の域に到達し、線材の自重せる輸入數量は他鋼材が滔々と悪化する中に獨り相當の値頃を保つて居るが、油斷は禁物、一度外註安に眩惑されて敢て走れば因果は數ヶ月後に環つて來るであらう。

總體には漸減の傾向であるが部分的に見れば未だ自重の領域が澤山に残されて居る、不況の罪をメーカーにのみ轉嫁する前に此輸入に就ても充分考慮を拂ふ餘地があるのではあるまいか。

東西市況——底値鍛鍊 此悲境を挽回すべくメーカーは諸種の統制策に畢生の苦心を拂つて居るが、左支右吾して中々纏まるに到らず、一方市場は賣行不振の聲益々喧しく不安は日一日と濃厚となつて來た。

其氣持の割には相場其物は總額に於て大なる變化もなく推移して居る、之は半歳近くの定期的無事や買控へに依つて相當腹の空いて居ることを證明するもので、工形鋼などの突然の部分高などが之を物語つて居ると見て居る筋もある。要するに現在は企畫されて居る各種統制策の成立と輸入減と相俟つて消費力に添ふ様になるまでの底値鍛鍊の時機と見られて居る。

東京市況

丸鋼 漸く跡を絶つたと思はれたベースの弱氣材料も此賣行不振に遇ふては遂に支持の力も盡き、またも70圓と云ふ安價の噂も出て氣分引き立たず、9mm また思惑外れからそろそろと相當安値物市場を彷徨し初めて、6月渡申込の1萬8,000 吨が決して實際の需要にあらざるを裏書きするに到つたのは誠に悲しむべき現象と云はればならぬと共に註文さへ取ればよいと云ふ根性もいゝ加減にして止めなければならぬものではあるまいか。

角、平鋼 角の狀勢殆んど變らず 38mm ギリ貧、平は大勢軟調なるも 1/4" 厚の 3/4"、7/8、1 1/4 及び 3/8 × 7/8 品薄に反撥氣勢である。

型鋼 中型等山成行は 8 圓 20 圓なるも底意何となく弱く纏つては丁度位を唱へられて居る、只 15 × 150 依然強調。不等邊不變、溝 2 × 4 は當所積出が追々と利いてギリ安、其他も不味。工形は部分高にて特に 16 × 6 は西高に誘發されて暴騰氣勢となり一擧に 10 圓 3、50 錢と上放れた。其他 5 × 3、7 × 8 が反撥した。

鋼板 9 月積のベース 6 圓安發表を眺めて氣配益々純調、1.6 も 3.2 も一路軟調を辿つて居る。

黒薄鋼板は不況打開策として東京鍍業者の十日位の工場休止となつたので何れ此反應は現はれるだらうが今の處は未だ原板迄響くには至らない様模である。

大阪市況

丸鋼 既報の如く 6mm、8mm は品薄のため強調を持続、然し乍ら 9mm は當所安値品入荷 豫報到着の爲 幾分氣を悪くしてゐる。鐵筋用丸鋼の纏つたものは 72—73.00 に取引せられて居るやうで目先尙一段安と見る向が多く全く底無狀態だと云はれてゐる、けれども間屋筋としては手持薄の爲め比較的無事に推移して居る模様である。

角、平鋼 角鋼當所製 1/2" 及び 7/8" は皆無にて前者は 8.60 後者は 8.80 を稱へて居る。1、1 1/4" は在庫豊富にて先物健値より大分割つて居る、併し需要至極少きため大した變動もないやうである。平鋼新規入荷は殆んどなきも角鋼同様需要少き爲め未だ可成の在庫あるらしくギリ安歩調を辿つてゐる。

型鋼 中型不振。大型もの幾分引締り氣味を見せて居る。工型鋼は部分高ながら賣行不振、併し引合は弗々出て居る。溝型鋼賣行面白からず軟弱。

鋼板 1.6×3×6, 4.5×4×8 品薄其他は當所品出廻りに軟弱を呈してゐる。

線材 外註品の入荷愈々少く且つ市場賣物又多からざるため賣手強腰にて大陸もの 1 噸 89 圓、當所品及び神戸製鋼物 1 噸 87 圓を唱へてゐる。然し製品界不振のため買手なくほんの當用買のみにて大勢弱氣充溢してゐる。賣手としては只品薄を待むのみだといはれてゐる。

鋳力板 依然たる鈍重の環境を眺め引續き各需要家共買氣なく全く沈黙の態だと云はれてゐる。

販賣旬報 第 131 號 昭和 5 年 6 月 21 日 製鐵所販賣部

販賣部長の聲明 6 月 19 日販賣部長は生産計畫に關し次記の聲明をなした。

製鐵所生産計畫變更の件 本所は官民分野の協定成立及刻下市場の大勢に順應せしむる目的を以て生産計畫の變更を行ひたり。即ち比較的需要の不振なるものに付ては之に相當する減産を斷行すると共に、爲に生じたる鋼塊の餘剩額は之を比較的需要の旺盛なるもの及在庫保管に適する品目の増産に振向くこととせり。就中減産を爲したるもの主なるもの次の如し。

厚板類 5 割減 小條類 3 割減 中條類 3 割減 大條類 1 割減

上以右に對し増産を爲したるものは在庫保管に適する軌條類、今日未だ輸入の跡を絶たざるシードバー、線材料、鋳力及珪素鋼板等にして其の結果本所全生産額は結局 100 萬噸を下らざる見込みなり。製鐵所販賣部長

5 月中の大陸市況 5 月に入るも大陸市場何等好轉の兆なく先行不安更に募つて需要頓に振はず、鐵鋼界は將に暗黒の眞夜に手探り歩く旅人の感がある。せめては大陸鋼塊組合の減産聲明に灯を得んものと唯一の希望を繋いでゐたに拘らず、其も今は仇、28 日巴里に開催せられた、同組合の會合は現状の生産を維持し且協定價格も据置きと正式に決定し落膽の淵につきなとされた、餘りにも市況に適合せざる無謀の舉、メーカーの腰の強さを示して買氣を煽る魂膽かは知らないが既に見透かされたお手中、玩具のピストル程の効き目もない。實際、現在の不況振りは想像以上で佛蘭西市場を除いては全く混沌たる状態に置かれてゐる。

獨逸の恐慌的經濟状態に付ては 1 ヶ月前既に報告済みであるが其の後更に深刻の度を加へ經濟資本の缺乏と、従つて起る産業界建築界の不振に依つて内地需要は枯渴し世界的不況に輸出も益々面白からず、歸する所は操短の實行となり、製鐵工場職工の失業軍續出となつて現はれてゐる。

最近の報道に依れば次記の諸工場は斷然職工の犠首を決意し夫々申し渡を終つたとのことである。

Ruhrovt-Meidrich 3,200 人 (Vereinigte Stahlwerke に屬する工場)、Horder Verein 360 人、Bochmer Verein 600 人、August Thyssen Hutte 750 人、

因に本年度の鋼塊生産額は次の通りである。(單位噸)

	1 月	2 月	3 月	4 月	計		計
1930 年	1,275,469	1,177,268	1,201,835	1,033,383	4,687,955	1929 年 1 月—4 月	5,471,683

獨逸の隣白耳義も亦同じ運命に逢着してゐる。貿易決濟の帳尻を見ても前年第一半期の輸入超過額は 9 億法であるに對し本年同期の累計は實に 17 億 6,300 萬法と倍の數字を示してゐる。かかる形勢に在つて鐵鋼業のみ獨りよからう筈もなく操短—犠首—賃銀値下と芳からぬ事態が續出し鋼材生産額の如きも月を経日を追ふて減少してゐる、即

	1 月	2 月	3 月	4 月	
1930 年	296,220	271,430	258,770	252,150	1929 年 4 月 300,540

殊に最近に於ける需要の減少は大陸鋼塊組合の割當額に頓着なく徹底的操短を餘儀なくせられ Providence を初め Sambre et Moselle Steel Co: Usines metallurgiques des Hainant の三社は夫々一基づ、熔鐵爐の火を落し、中には 1 週間 3 日をフルに作業し残る 3 日を能力の 50 % に於て操業してゐる工場もあると云ふ。兎も角も操短の報は市中しきりに傳はつて現在の生産額は恐らく月額 175,000 噸程度であらうと。獨り順調に運行を續けてゐる佛蘭西は如何、之とても漸次凋落の兆ほの見えて先行決して樂觀を許さぬものがあるとのことである。

かかる形勢下に列國の争激甚を極むるは思ふてもあまりあり、國際協定價額は表面的持續されてゐる如くであるが賣買の實際に當つては種々なる手段を弄び買手の争奪に死力を盡し殆んど公然協定破りが行はれてゐるらしい。

其の方法の第一は C.I.F. プライスにて契約を締結し運賃安を口實に F.O.B. 協定價格を賣り崩すのであつて既に述べた處であるが、棒鋼に付ては 1 志 6 片乃至 3 志、工形は 1 志乃至 2 志、帶鐵に付ては 2 志 6 片乃至 3 志 6

片の値引は通常であると、第2の方法は價額協定ある品目は兎も角も、値引すること困難ならざる價格協定品目以外の製品と組合せて買入れる場合に其の製品を特別に安賣し間接に協定破りの目的を達せんとするのである、此の方法は鋼板薄板に最も多く用ひられること例へば $\frac{3}{16}$ " (3.2mm) が 6-9-0 の時若し $\frac{3}{16}$ " (4.5mm—協定品目) を込みで買入れる場合には $\frac{3}{16}$ を 6-1-0 位に逆値引するものである。

先日来日本に来る外註相場がベースものより猛烈な逆轉を示したのもこれが爲、人をくつたやり方ではある、以上の如く八面六臂の相場は市場の現存價格を掴むこと困難ではあるが一應其の大勢を述べれば次の如し。

鋼板 $\frac{3}{4}$ " (6mm) 及び $\frac{3}{16}$ " (4.5mm) は需要可成り多く協定價格を強含み保合、6-8-0 及 6-10-6 $\frac{3}{16}$ " (3.2mm) 及薄板 (1.6mm) は註文全く涸渇し漸時低落の趨向を辿りつゝあり、初旬 6-2-6 (但協定品目と組合せ購入の場合) を賣唱へられた $\frac{3}{16}$ " は、下旬には 6-1-0 を下廻り、1.6mm も 6-14-0 より下旬には一躍 6-11-4 と慘落した。

ロッド 依然 6-5-0 (f. o. b.) を保つてゐるが日本向のみに對しては c. i. f. 7-7-0 より一擧 5 志引下げて 7-2-0

其他の製品ブラツセル取引所相場は次の如く總て協定價格に止まつてゐるが勿論名目に過ぎぬこと以上述べ來つた通りである。

	7 日	14 日	21 日	23 日	最後に其の後の國際協定の動きを簡單に一括して見るならば
棒 鋼	5-7-6	"	"	"	1、大陸メーカーは國際共販組合設立の準備として半製品及び型钢、棒鋼、鋼板、帶鐵及箍鐵の4品目に付き夫々特別委員會を設置し、總ての註文を一手に集めて之を組合員に一定割當率に従つて分配し且價格を協定し、之に基き組合員は各月割當られたる註文を別個に契約履行する共販組合の設立は可能なりや否やを其の審議に附託した。(5月14日)
工 形 (N. P.)	5-1-3	"	"	"	
工 形 (B. S.)	5-3-6	"	"	"	
大型 山 形	5-7-6	"	"	"	
鋼 板 ($\frac{3}{16}$ ")	6-10-6	"	"	"	
ピレット (2")	4-14-0	"	"	"	

2、現在の國際價格協定並に國際分配事務局に依る統制はとり敢ず本年 12 月 31 日迄存續せしむることに決定。
(5月14日)

3、大陸鋼塊組合特別委員會は英國に於ける鐵商と會議をとげ英國鐵商が大陸製品を買入るゝ場合 A 級に屬するものは純當り 2 志、B 級に屬するものには 1 志の割引を爲すことに決定した。

中型等邊山形鋼生産協定 1 ケ年間の實績 昭和 4 年 6 月より實施せられたる、當所及日本鋼管、東海鋼業の二社の生産調節申合せは 5 月を以て滿 1 ケ年を経過した、其の實績は次表の通り基準數量 12 萬 8,000 噸に對し約 3 萬 2,000 噸の減産と云ふ結果となつた。それでも猶現在の市場は 80 圓そこそこと云ふ低迷振りである。協定最終月たる 5 月に於ける生産も基準數量よりは約 1,500 噸の減産である。

	寸 法 (單位噸)								計
	50mm	60mm	65mm	70mm	75mm	80mm	90mm	100mm	
5 月 生 産	2,899	16	1,938	1,909	—	168	913	1,403	9,246
1 ケ年 間 "	22,338	80	23,863	90	22,521	718	12,809	13,900	96,319

造船用鋼材の受註 頃目當所は三菱商事の手を経て長崎造船所向造船用鋼板約 2,700 噸其他の造船用鋼材を合せて約 4,000 噸の受註をなした。當所は民間會社と異なり造船用鋼材に對しては何等の特典なきも現下業界の難局打開の一助としては多大の犠牲を拂ひ此方面の進出を敢行したるものにして當所としては正に刷期的事象に屬することである。

硫酸安母尼亞近況

1) 硫酸 1 ヶ月先物契約に改正 外國硫酸の不當廉賣問題に端を發した斯界の引續く未曾有の亂脈相場に關稅の賦課、助成法の制定促進、内外硫酸の販賣協定等關係筋の躍起的對策運動も相當輸入價格の推定困難や、市價吊上げが肥料政策に矛盾する等種々の問題を伴つて未だ決定案を見ない儘に推移し、市況は陰性化した巧妙な販賣戰術と目前の不需要期に益々賣崩される危険性を含んで居る。實際問題として電氣化學では本品の製造全廢さへ傳へられるに至つたが此處數ヶ月が硫酸界全般的浮沈の瀬戸際であらう。

極端なる環境不味に當所品も今後契約方法を多少改正する事となつた。即ち元々現在の3ヶ月先物入札契約は1昨年3月から當時の市況に基いた直接大口契約先の希望を容れて執り來つた方法であるが「長期先物契約の価格は先安懸念に包まれた現在では採算點の基礎困難で、結局恐怖心を織り込んだ所謂推定値段を希望する事となるから市場安定までは可成現物契約か短期先物契約を」と云ふ各契約者側最近の意嚮を參酌して當分1ヶ月先物入札契約に變更した。未だ契約方法改正の真髓に觸れない憾は無いでもないが取引先各社の空氣が一致にまで至らない折柄此の程度で止むを得まい。

2) 當所品の需給概要 本年度渡月別契約高及び洞岡新工場(既報)其他契約未了の上半期中各月工場別生産豫定高は下記の通りである。

1. 契約高純

4月	渡	1,123,500
5月	渡	1,542,125
6月	渡	1,726,562
7月	渡	1,352,000

2. 工場別生産豫定高

工場名	8月	9月
第一工場	246噸	238噸
第二工場	325	314
第三工場	357	346
洞岡工場	302	292
戸畑工場	176	170
計	1,406	1,360

尙目下既契約品の受渡は極めて順調で在庫品全く拂底し約3,650噸と云ふ裕に生産高2ヶ月半分以上の貯蔵能力に對して各工場とも殆んどガラ空同様で一般市況大不振の際に特殊な現象を示して居る。

海外情報 ブラッセル特報(ブラッセル駐在齋藤囑託來電)

6月8日 市場依然振はず、國際分配事務局は本年末まで兎も角も現状のまゝ存續せしむることに決定せり。

6月18日 獨逸鐵鋼聯合會は現行組合價格を改正し6月1日より各種製品に亘り約4麻克方の値下げを斷行した、市場は何の變化もなく國際共販組合設立に關し最近屢々會合が行はれつゝあるも未だ何等の決定を見ず。

尙自耳義に於ては7月1日より約75%の工場職工に對し賃銀引下げを斷行することに決定。

東西市況——不安不去 一般經濟界の不況が深刻となるに連れ前途に對する不安の氣分濃厚となり爲に買氣は地を拂ひ、此際は儲けるよりは如何にして損を少くすべきかの觀念瀰漫して只々手持の消化に之を努める結果、仲間取引は殆んど跡を絶ち閑散を續けて居ると云はれて居る、然し地方筋は未だ季節相當の消化力がある模様である。猶近來入電の海外安や不況の持續による金融難を考慮に入れて共販組合や分野問題も一向地場には反響が無いと見られて居る。

東京市況

丸鋼 5割減産の實行と云ふことも、常態なれば響の聲に應ずる様に反應が現はれるのだが、こゝ買氣が跡を絶つた際にはオインレとは利かず市場も沈滞して居る、9mmも先行を考慮に入れる餘裕などなく只其日其日の成行に引きづられて居るものと見られて居る。

角、平鋼 角の細物は少量の伸鐵物の安値に脅かされてジリ安となり38mm昔日の面影もなし、平は不變、前旬どうかなると思はれた $\frac{1}{4}$ "厚ものも何時の間にやら影を没して平均された。

型鋼 中型等山は非常に緩漫な歩調で一歩一歩8圓の關門を指して低落して居る賣行不振とメーカーの弱腰が其原因ではないかと思つて居る筋もある、大型は小腕り。不等山軟勢不變、溝形は臺割れの指値が現はれたこと程左様に不味であるが、一面易々として之に應ずる程度には悪化はしては居ないと云はれて居る、2×4も愈々關門危ふしと見られて居る、型鋼中兎も角も生氣のあるのは工形で、特に16"以上は騰勢を辿り16×6の10圓20錢など花形であるが2×4の轍を踏まざる様切望する、猶6×10、5×8など好調を傳へられて居る。

鋼板 1.6、2.3、3.2、は僅少の輸入物が市場を彷徨して落潮に油を注ぎ先行も弱氣で賣腰と傳へられ4.5以上はシャーの弱腰なのに叩かれて軟調だと觀測して居る筋もある。

鋳力板 一般在荷漸減、特は米100封度は皆無状態なるも別して需要もなく痛痒を感じざる模様である。

大阪市況

丸鋼 5割限産具體化氣分に近く引締るべしと見る向もありて幾分市況落付を示して居るが現在の取引は依然閑散にして軟弱氣迷に推移して居る。建築用の引合は幾分増加した。

角、平鋼 著敷き變化もなく弗々品薄ものを生ずる氣味はあるが需要少く伸鐵ものにて充分供給されて居る、伸鐵原料は最近拂底し漸く材料難に見舞はれんとして居ることは今後の市況に幾分變化を見せるものでないかと思われて

居る。

型鋼 山型鋼中型もの 80 圓を焦付て不動、大型ものは稍々良好とも見るべく目先相當荷動きありと期待されながらも環境悪く今一段冴ゆるに到らず。工型鋼大型ものは漸次拂底し 17'、20' ものは駈り一、二種を除き全般的に引締つて居る。溝型鋼は依然賣行不振に軟弱、無いもの高に 10'×4' もの 13-00 と異彩を放つて居る。

鋼板 1-6 東京安と先物安に 11-00 と反落し 3-2, 4-5 品薄ながら氣鈍く、厚板需要減退に依然軟弱。

線材目下の呼値は 大陸もの 1 噸 89 圓 當所品及び神戸製鋼品 1 噸 86 圓 50 錢である。

財界事情の不良で、買手は非常に慎重な態度を取り、當用買のみに買付いてゐるため市況は振はない、しかし最近或る製線會社に必要買が出たので市場在庫薄と相待ちて幾分好調子となつて來た模様であるが先行に付てはまだ樂觀は許されないであらうと見る筋がある。

鐵力板 市場在庫は概して漸減してゐるやうで安値には賣物がなく、また戻つたところは買物がない有様で相場は閑散裏に一高一低を呈し全く昨今の天候そつくりだと云はれてゐる。

鐵鋼界日誌

將來の参考に資する爲め鐵鋼界に起つた主要な事項を 6 月から掲記することにした、然し未だ準備が充分整はぬので不備の點が多くあるのを御宥怨願ふと共に、御通知をお願いした向でも其趣旨を諒解されて巧遅よりも拙速を尊び御面倒でも成るべく迅速に御通知方御配慮を願ひます。

6 月 3 日 關東鋼材販賣組合、常例理事会、主要なる議事、引合、賣約、需給高報告と京濱向販賣方針に關する協議

6 月 4 日 1、大阪伸鐵業組合、組合役員會、主要なる議事、斯業不振窮境打開策講究の件、右に就き一般材料關係に一層不利困惑する處あり、將來之れに對する善策に關し更に臨時總會を催すことに決す。

2、三エス會、(製鐵所電氣鐵板に關する三井、三菱、日立製作所の會)、主要なる議事

- 1、第 2 期自 (7 月至 9 月) 一般賣價格次の通り決定 (イ) B 級品 237 圓、バンド締 (ロ) T 級品 320 圓箱入り
- 2、寸法米突化の件、製鐵所より次の案を提出し次の會議迄懸案とす (イ) 最初 1 ケ年は 3×6 判とす (ロ) 次年は 3×6 と 1,000mm×2,000mm か又は 900mm×1,800mm かの何れか一方を併用す (ハ) 3 年目より (ロ) にて採用の米突米寸法の専用とす。

6 月 5 日 鐵業睦會 (東京鐵問屋の會) 主要なる議事

- 1、9、10 月渡製鐵所先物値段希望案 2、製鐵所に對する減産斷行要望 3、製鐵所線材の短尺含有の形狀不良の改善方要望 4、積止品引取條件を大阪、名古屋と協議の上決定の件

6 月 6 日 鋼材聯合會、第 17 回委員會、主要なる議事

- 1、12 耗丸鋼生産割當の件、12 耗 (11 耗及 13 耗を含む) の生産割當に關し協議の結果昭和 5 年 6 月 1 日以後 1 ケ年間の各社生産標準を次の通り決定せり

1、丸鋼 12 耗 (11 耗及 13 耗を含む)

日本鋼管	大阪製鐵	釜石鑛山	神戸製鋼	富士製鋼	小倉製鋼	合計
12,000 噸	6,000	11,000	14,000	6,000	11,000	60,000
(20-00%)	(10-00)	(18-33)	(23-34)	(10-00)	(18-33)	(100-00)

- 1、平鋼生産割當の件、38 耗乃至 65 耗平鋼生産割當に關し協議の結果昭和 5 年 6 月 1 日以後 1 ケ年間の各社生産標準を次の通り決定せり。

1、平鋼 (38 耗乃至 65 耗)

日本鋼管	大阪製鐵	釜石鑛山	神戸製鋼	富士製鋼	小倉製鋼	合計
12,400 噸	7,000	3,600	3,600	3,600	5,800	36,000
(34-45%)	(19-44)	(10-00)	(10-00)	(10-00)	(16-11)	(100-00)

- 1、12 耗丸鋼及平鋼減産の件、12 耗丸鋼及平鋼生産に關し協議の結果昭和 5 年 6 月 1 日以降各社生産高を 2 割減産のことに決定せり。

1、ベース丸鋼減産擴張の件、ベース丸鋼減産率現行 3 割を更擴張すべきや否やに關し協議せり。

6 月 7 日 製鐵所先物協議會、旬報第 130 號掲記

- 6月9日 1、大阪伸鐵業組合、主要なる議事 1、營業の消化する材料需給關係を將來圓滑ならしむべき方策研究 2、臨時會議を開き以上に對する當組合の希望を製鐵所に懇請せんことを決議す。 2、六軌會、主要なる議事 1、六軌會向 8、9月積先物値段及一般賣現物値段取極めの件、數量 10 哩未滿 91 圓 “ 以上 89 圓
- 6月11日 鐵業睡會、主要なる議事 1、大阪に於ける三都協議會經過報告 1、積止品の件に付再協議
- 6月14日 關東鋼材販賣組合、常例理事會、主要なる議事
1、引合、賣約高、5月中實産高 5月未賣約引渡殘高、需給高報告 2、8月渡販賣値段の件 3、ベース丸鋼減産率擴張の件、ベース丸鋼を7月1日以後9月末迄3ヶ月間各社減産率を現行3割より5割に擴張のことに決議す、以上は鋼林聯合會の5割減産の成否に不拘實施のこととせり
- 6月19日製鐵所減産に關する販賣部長の聲明書發表さる(別項記載)

販賣旬報 第132號 昭和5年7月2日

製鐵所販賣部

更生の道なきか (其5)

6) 然らば輸入防遏の具體案如何。

第1は輸入管理機關の設置である。此の機關の主たる職能とする所は輸入統計の作成並に發表で、監督官廳内に設ける必要がある。と云ふのは此の統計たる從來の單なる輸入統計と甚だ其の趣を異にし、輸入業者が契約を締結すると同時に此を申告せしめて、各品種細別に從つて一括し日々少くとも毎週發表せんとするものであるから、官廳の權威を用ひて稍々ともすれば着港のどたんばになつて漸く申告せるの弊に陥るを取締られなければならない。從來の輸入統計では品物が税關の關門を現實に通過する時税關に申告せしめて之を累計した、いはば過去の記録だから「多過ぎた、それ大變」とあはてふためく其の時は既に盜繩、あとからあとからと既契約の思惑品が入港して、つらつら統計を眺めて今日あるを未然に防ぐ統制力は全くない。此に反して契約高の速報が毎日机上に置かれたとしたら、幾ら暗中躍、一六勝負の好きな方でもきびが悪くて買へやあしない。

扱て其の效能は上記の如く明白として官廳の權威をどう用ひるか、方法は種々考へられようが歐洲と米國に大別して、夫々日本までの最短輸送日數を計算し、若し申告が現品着荷の時より遡つて其の最短輸送日數以内であつた場合には斷然陸揚げを禁ずるか嚴罰に處するかするの亦一方法ではあるまいか。而して他方完全なる消費統計(需要統計)を作成し且内地各製鋼業者の細目別生産數量、契約高(渡月別)及引渡高を毎月收集發表すれば營業自由を束縛したり輸入其のものゝ効果を減殺することなくして見事統制がとれると云ふもの、將に一舉兩得であらう。

第2には輸入業者の組合の形成である。實の成否を度外視して其效果の點にのみ着眼すれば、全輸入業者を網羅する組合を作つて3月毎に需要を査定し、之に適合する輸入數量を決定按分するのが最も合理的な方法ではあらうが、とかく浮世は惡戯者の寄り集りおまけに欲と二人づれ、奪ひ合つて滅茶滅茶にこはして了つても相手にはやるまいとする、先づ今の處では望めまい、とすればせめて三井、三菱、岩井、安宅の4社を中心とする輸入業者懇談會でも作つて定時又は臨時に開催し輸入數量に關する意見の交換でもしてはどうか、日本の需用がどれだけあるのか、眼前の利益のみに走らず永遠の繁榮を考慮して幾許輸入するのが適當であるか等眞面目に統計を研究するだけでも無きには優る、前垂掛の商法を脱して科學的經營に一步を進めてもいい頃だ。算盤玉は計算器によつて變けらうとしてゐる。

第3は外註値段追従主義で最も根本的な對策たる事勿論、高いが我慢して買つて呉れれば今の世の中は通らない。過去に於ける外國品の市場氾濫時代から今日の本邦製品中心時代にまで漕ぎ着けたのも、亦關稅の保護の下に此の方針を徹底的に採用したお陰、日本が輸入國である以上餘りにも當然であり、現在の狀態の續く限り將來に於ても約束されたる不變の準則である。最近内地市場頓に悪化し市中相場は輸入相場を遙か下廻つて甚しきは純10數圓の下値に爲した爲「製鋼業者は宜しく内地相場に追従して日本固有の建値を作れ」と喧しく叫ばれ且實行せられるに至つたが、もとより其は外註値段追従主義の放棄を意味しはしない。外註値段は依然内地メーカーの越ゆべからざる最高の限界、たゞ其の範圍内に於て市中相場を考慮し且つ之に追隨すべしと云ふに止まる。云はゞ安い方を探れと云ふこと。然し外國品との競争上の立場に於ては外註追従は不變の原則、殘されたる問題は外註防遏の徹底を期して内地市場を完全に獨占せんとする今後の對策として内地の建値と輸入値段の間により多くの開きを存して輸入業者の思惑の範圍を狭めることだ。此こそ外敵に對しては關稅障壁の實質的增加であり、内消費者に對しては輸入税の實質的輕減を意味し、内地鐵鋼業の眞の基礎ある發展はかくしてこそ望まれもする。然らば幾許の開きが適當であるか、歸する處問題は本邦鐵鋼業自體の合理化乃至市場安定策の成否如何にかゝつてゐる。

第4、生産並に経費の合理化が外註防遏の根本的なる対策であることは今更述べるも愚。又關稅率の引上が同一の效果あるも議論の餘地がない。一は百益あるが金との相談、二は一部を利して消費者を害ふ批難を免かれぬ。前者に就ては既に述べもしたし後に述べる機會もあらうが、最近政府も一ひざ乗り出して全國銀行業者を大藏大臣の名の下に集めて、合理化の爲にする金融の道を懇談した。申合せの實行力が何の位あるか今の處ではわからないが、小生の思考する處では個々の會社の合理化乃至合同に資金を投ずる外に金融業者の參劃を得て鐵鋼業の販賣組合を作り資金に對する反對給付として之に監視權、及び或程度までの干渉權を與へ、兩者提携して再生の道を講ずるの英斷に出づべきではあるまいか。關稅引上に對しては當然異論があらう。然し幾ら生産費が下つてもダンピングの擧に出てる大陸メーカーを相手にすることは不可能だ。而も世界的の此の不況にあつては大陸と雖も生産費など考慮してゐる遠がなく特に日本に對しては採算はずれの大投賣を試み、之が爲に切角健實に育て上げられんとする我國鐵鋼業は蟲にくはれて枯木になつて了ふだらう。消費者も亦一面には生産だ、少くとも事業の盛衰如何に首のつながるサラリーマンが大部分を占めてゐる。一概に「一部資本家の」など、痛罵して自らの首をあやふくする必要もあるまい。筆者は此處に於て外註値段の高低に依つて關稅を上下せしめ常に一定の價格を維持せしめる所謂スライディングスケール法の適當なるを唱道するに止めて次に移る。

9、10月積先物賣出と申込狀況

1) 積月は9、10月と云ふ絶好の季節である。世が世なら定期も先物を押すな押すなの盛況であるべきなのに、今月今日の此有様はどうであらう。如何に買手の苦しいかと云ふことも分るが、賣手も當然受難の絶頂である。

2) 條鋼の申込は先月の 1/2 鋼板の申込も 1/2 黑板は再び空欄、線材も不振と總崩れである。

流石の丸鋼と平鋼も愈々沈靜に歸して各半減し、特に等邊の激減の目立つて居るのは例の際物の大型物を諦めた爲と見られる。

鋼板市況の續落は當然申込に響いて先月兎に角 2,300 噸の申込を見た一中板も今月は只の 700 餘噸。

黑板は 2 ヶ月續いて空欄の止むを得ない狀況になつた程市況は悪化して居るのである。恐らく亞鉛引板の消費力

9、10月積先物賣行概況 (單位噸)

工場名	先物	引受噸數	工場名								計	申込噸數						
			線材	小形	三小形	一中形	二中形	四型鋼	一大形	二大形		三形	軌條	東京	大阪	名古屋	其他	
			賣出噸數	1,800	6,000	1,000	1,000	1,000	1,800	2,100		—	14,700					總噸數
條鋼の部	丸角鋼	177	5	3,900	—	103	—	—	—	—	—	4,185	5,584	3,130	1,985	385	84	
	鋼平	—	60	—	47	16	—	—	—	—	—	123	88	30	15	25	18	
	等山	—	364	248	39	—	—	—	—	—	—	651	737	145	330	149	113	
	不山	—	120	75	—	—	5	—	568	—	—	768	397	335	40	9	13	
	溝形	—	—	—	22	—	6	—	55	—	—	83	199	20	170	4	5	
	工形	—	—	—	—	10	—	—	107	—	—	173	247	40	150	57	—	
	先物計	177	549	4,223	108	129	21	56	885	—	—	6,148	7,572	3,700	2,995	634	233	
鋼板の部											鋸力板の部			黑板の部		線材の部		
工場名	區分	先物賣出噸數	引受噸數	申込噸數				品種	市場	實需	賣出噸數	品種	線材	製釘材				
				總噸數											區分			
				東京	大阪	名古屋	其他											
厚板	1,000	57	125	20	5	45	55	賣出噸數	700	700	—	賣出噸數	2,500 (200)	3,100				
一中板	1,000	840	777	240	370	125	42	申込噸數	825	700	—	申込噸數	—	—				
二中板	1,000	760	691	205	330	130	26	100lbs	280	200	—	噸數	2,660	—				
先物計	3,000	1,657	1,593	465	705	300	123	170lbs	420	200	—	引受噸數	2,500 (200)	3,100				
								Oil size 計	700	700	—	噸數	—	—				

備考 線材の部に於ける括弧内は定期

の減退は他鋼材に比し最たるものではあるまいか。踊るかと思えた線材も製品界の不振には勝てず、どうやら落ち付いた模様である。

3) 何は兎もあれ月を逐ふに従つて悪い方の新記録の連続であるが、結局悪いとしたなら中途半端な買控へは益々市況の悪化を永引かすものである。寧ろ思ひ切つて減少した方が効化を促進するものではあるまいか。

東西市況——低迷 棒鋼の分野もどうやらホット一息つき、山形鋼分野も當然に成立するものとして、其を當にして値段も今日まで頑張つて来た處遂に決裂の悲運に遇ふて不安の空気を深めた感がある。其に一般不況の深刻化に加へ、季節的の需要減退と相俟つて荷動き一層鈍いのを一層痛感される様になつて市場は益々減入つて行くと言はれて居る。

東京市況

丸鋼 氣分悪し。相場だけ見たのでは一寸判らない位にチリチリと減入つて行く、只 6mm が品薄状態であるがそれとても大した事なく 9mm 官民分野の決定は屢々承知して居ながら持ち耐える力もなく僅少な伸鐵物の注入や民間の注文残りを理由として未だ弱含みと見られて居る。

角、平鋼 角は賣行は不振なるも相場としては物により 10 錢揃みの高低を畫いて推移して居る。平 $\frac{1}{4} \times 2$ は聊か好く其他は不變。

型鋼 山形鋼生産分野の不成立は當然影響あるものと思はれるが東京は大阪に比しては鈍感で表面には大して現はれざるも底意は勿論軟弱にて大口見積では 7 圓 70 錢位を云はれて居るものもあると傳へられて居る。只例外として等邊大型物は稍睨りである。溝形は最も深刻なる不味に陥り $2\frac{1}{2} \times 5$ もさることながら 2×4 に至つては臺割れの取引も弗々現はれたと云はれて居る。工形は之に反して不相變の部分高を繼續し 5×8 、 6×10 は 9 圓 2、30 錢を呼んで居る。只 3×6 、 4×8 は目立つて不振である。

鋼板 總難のチリ貧状態改まらず、 $4.5mm$ 以上特に甚だしいと云はれて居る。此類勢の中で獨り $1.6 \times 5 \times 10$ が 12 圓 6、80 錢を保ち $2.3 \times 5 \times 10$ が特別に消化されて爲に 11 圓 8、90 錢を傳へられて居る。

大阪市況

丸鋼 不景氣の深刻化に伴ふ鋼材需要の著敷き減退は斯業を益々悪化せしめ減産も協定も時代に追隨して行くのみでリーダーたり得ない恨がある。先物契約の激減は軀て來るべき活躍時代の礎地を調ふるものとして好感を持たれて居る。市況には何等變化もなく唯平凡に推移しつゝあるやうであるが 9mm は 73 圓、ベースもの 75 圓と低落したのが目立つ。

角、平鋼 22, 38, 50, の角鋼は品薄を告げながらも伸力鈍く其他不相變鈍重。平鋼は喘ぎながらも環境に抗し得ず依然伸鐵ものは安値に供給せられ製鋼業者の平鋼進出餘地を見出すに苦しむ程賣行は遅々としてゐる。

型鋼 山型鋼等邊中形等はず 80 圓臺割れを散見する慘さ、期待された大型ものも品薄のみ鈍調。工型鋼大型もの比較的強調とも見るべく、ベースもの變らず。溝型鋼賣行不良に次第弱りの態だと云はれてゐる。

鋼板 13 枚ものは目下實需と供給は一ばいにて尙餘りを生じ賣行激減と相俟ちて益々不況漸落歩調を辿つてゐる。川崎鐵板會社の 7 月賣出しが一般注視の的となつて居るやうである。 $1.6 \times 3 \times 6$ は相變らず強調持續。 2.3 、 3.2 は當所品入荷、先物安、東京安等弱氣材料に氣を悪くし賣急がれてゐるやうで、厚ものはシーヤ業者の協定不安に一段安。

線材 引續いての降雨に買氣起らず少しの入荷にも脅かされ尙積品賣行捗々しからず丸釘は 1₁ 樽 1、30 錢方値下げせしため 7 月ものは更に安値を唱へてゐる模様で氣配は不味閑散にてジリ貧状態と云はれてゐる。

鐵力板 どちらを向いても不景氣で、仕事がない、品物が賣れないといふ嘆聲ばかりのげふこのごろとて我鐵力界も御多聞に漏れず賣行不振をかこつてゐる。然し斯る内にも英 170 封度は愈々品掠れを告げ強含みにて爲めに米、和品共幾分氣を持つてゐるやうであるが多額の期待は望まれぬであらう。

シヤム國(タングステン)鑛石需給狀況(昭和 5 年 4 月 4 日附在バンコック天田領事館事務代理報告)

滿僱鑛類及亞鉛鑛は實際には採掘せられず。(暹羅に於て目下營業的に採鑛せらるゝものは錫のみとす。タングステン鑛は市場の模様に応じ錫産地方に於て採掘せらるゝ、他には數年前石炭の採掘を目的とする會社設立せられたるも、經營方法宜しからず間もなく解散せられたり)。

暹羅産タングステン鑛は凡て暹羅領馬來半島の錫産地に於て採掘せらるゝも、當國內に於て製煉加

工せらるゝことなく、鑛石の儘彼南其他歐米の需要先に産地より直送せらる。

最近の輸出額下の如し（即ち之を以て其各年度の産出額と見て大過なし）

佛曆年度	彼南仕向		新嘉坡仕向		其他仕向	
	數量(擔)	價額(銖)	數量(擔)	價額(銖)	數量(擔)	價額(銖)
2454	—	—	148	7,855	伊太利 341	20,719
2458	—	—	—	—	米國其他 1,092	112,990
2459	—	—	—	—	米國其他 1,299	162,057
2460	—	—	—	—	米國 336	44,560
2463	—	—	176	5,134	—	—
2463	—	—	—	—	獨逸 978	37,452
2469	78	2,552	—	—	獨逸 78	2,561
2470	126	3,028	—	—	—	—

（備考 佛曆 2470 年 = 自 1927 年 4 月至 1928 年 3 月前表中年度の脱落し居るものは輸出なきの年なり。）

産地の市價は凡て新嘉坡の市價を標準とす。新嘉坡市價は當國のタングステン鑛に對する課税の基本となるものにして、在新嘉坡暹羅總領事は市價の變動ある度に本國斯鑛産地の鑛務局に電報し居れり。

當國タングステン鑛は前述の如く大體錫産地方より産出し居り、之に對する課税方法は最初該鑛石を錫鑛と見做し錫に對する税を課し、(鑛石の 72% を純鑛分とし、之に對し前述の如く新嘉坡の市價に應じ細密なる税率表を規定す、(大體從價 2 割 5 分前後とす) 後分析の結果 (分析手数料 1 件 15 銖) 純タングステン鑛分 40% を超ゆる場合にタングステン鑛として新嘉坡の市價に應じ税率を定め、前納の錫税を斯税に振替ふ。税率は錫の場合と略同率なり。

鐵鋼界日誌

6 月 18 日 關東鋼材販賣組合、理事會、鋼材聯合會丸鋼ベース 5 割減産に就き關西側への對策を協議す。

6 月 21 日 關東鋼材販賣組合、理事會、京濱向販賣に關し賣約數量は各社の生産比率により按分引受のことに決議せり、

6 月 24 日 山形鋼協定會、午後 2 時製鐵所東京出張所にて開催。製鐵所、日本鋼管、富士製鋼、淺野小倉、神戸製鋼、大阪製鐵、住友伸鋼、釜石鑛山、東海鋼業出席す。

協議の結果意見纏らず無期延期となる。

6 月 26 日 鋼材聯合會、定時會員總會、丸鋼ベースの生産を 7 月 1 日以降當分 5 割減産を實行することに決議し更に第 5 期の丸鋼及平鋼の各社生産割當案を可決せり。

木曜會 1、7 月日程として先物協議會を 11 日東京にて開催することに決定。2、4 社側より民間黑板減産計畫に關し、製鐵所へも減産要望ありたるも共販問題が懸案となり居る場合なるを以て問題とせざることにせり。

旬報訂正

旬報第 129 號「東西市中相場」中東京鐵力板相場に於て英國 170 封度 19-20 八幡 170 封度 20-30 と訂正す

9、10 月積先物協議會記事の表の備考 (1) にある ¥5.50 は ¥2.50 の誤植に付訂正